

産業界等と連携した学びの実践事例

学校名	岡山県立玉島商業高等学校
実践場面	「課題研究」における地元有志の授業伴走
実践日時（時期）	令和6年5月～令和7年1月
対象生徒（学年）	3年・課題研究（SDGs 講座）25名
連携の形態	☒ 包括連携協定（玉島商工会議所） ☐ その他（ ）
学びの分類	☒ 講演会講師・説明会 ☐ 技術指導 ☐ 企業訪問・インターンシップ ☐ 商品開発・共同研究 ☐ 最新技術・設備の見学 ☒ その他

実践の内容

【現状】

- ・本校に在籍する約4割の生徒は地元中学校出身であるが、港町玉島の魅力を発信できるだけの知識やスキルを身につけていない。通学するだけでは、地域の歴史・文化に触れ、地域資源の存在を知る機会に乏しい。
- ・課題研究（SDGs 講座）は、地域における諸課題を、「SDGs」と高校生の視点で改善・提案する講座であるが、備中玉島みなと朝市への出店・参加など、地域の方々と関わる機会や生徒の人数が限定的であった。

【実践内容】

- ・包括連携協定に基づき、玉島商工会議所との連携を模索していたところ、玉島地域の活性化に取り組む商工会議所内のプロジェクトチーム（“タマリバ”＝玉島リバイバルプロジェクト）と共同で地域課題に対しての活動・研究・提案をすすめていくこととなった。
- ・廃業した銭湯「みなと湯」を玉島市民が憩える“サードプレイス”として復活することを計画し、探究を重ねた。
- ・5月からの週1回の授業（木曜・午後2時間）には、タマリバのメンバーがオブザーバーとして参加し、生徒とともに企画立案、ワークショップ、フィールドワークなど様々な活動に“伴走者”として関わっていただいた。
- ・タマリバの関係者から輪が広がり、町づくりを行う建築家や企業経営者の視点での企画立案、調査分析を専門とする大学教授を招聘しての各種のワークショップを授業の中で実施した。



実践による効果等

- ・地域のことを真剣に考え探究する“大人”と接し、ともに活動していくことを通して、地域における高校生・若者の果たすべき役割を認識し、また、ともに試行錯誤することの面白さ、楽しさ、奥深さを実感していた。
- ・学校だけでは指導することが難しい実践や活動についても、産業界の方々を介することで、取り組むことのできる事柄の幅が広がった。
- ・みなと湯をフィールドにした取組を「高校生が考える空き不動産活用コンテスト」（明海大学不動産学部主催）にエントリーし、最優秀賞を受賞した。

※実践の様子が分かる写真等を適宜入れてください。（肖像権の確認等（特に企業側）は各校で行った上で提出してください。）